

# 桑名文化協

## 新春六華苑祭



令和2年3月15日  
第47号  
桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
<http://bunkyo-kuwanajp>

### 芸能I部門 村瀬昌子

(箏曲・三絃グループ箏奏)

一月十八・十九日に新春を寿ぐ新春六華苑祭が重要文化財である六華苑で開催されました。和館では和・洋楽器の演奏、洋館ホールではマンドリンの演奏、番蔵棟では美術展、離れ屋ではお茶会、芝生広場ではキッズダンスが催されました。

元号が「令和」となり、私たちは新春らしい華やかなおめでたい曲をと思い「六段の調」と「遠砧」を演奏しました。衣装は演奏曲や和館の雰囲気に合わせて着物とし、和館の広縁のレトロなガラスから差し込まれる暖かな日差しが、まるで出演者にスポットライトを照らしているような中、今年初めて全員揃って来苑者の前で演奏するお弾き初めでもあり、心新たに素晴らしい六華苑で演奏できたこと大変光栄に思っています。

また以前は和館の客席は座布団でしたが、今回からすべて座椅子に



▲和館一の間にて「新春を雅びて」

なつたことにより、お客様には令和時代の幕開けの新春をゆつくりと楽しんでいただけたのではないかと思います。

舞台転換では、六華苑の職員の方、文化協会の方がワンチームとなつて頑張つていただき、ありがとうございます。これからも素晴らしい六華苑祭が続きますようにお祈り申し上げます、また

微力ながらご協力したいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

### 美術部門 加藤由貴子

個人会員(美術工芸彫型画)

一月十五日小正月(女正月とも)が過ぎた十八日、十九日に文化協会会員が一つとなつて行う恒例の二日間が、六華苑で催されました。穏やかな天候に恵まれ(過去には雪の降つた年、風が強かつた年もありましたが)楽しい時間を持てた事嬉しく思いました。

美術部門では番蔵棟を拝借して油絵、水彩画、デッサン等カラフルな色彩の作品。一瞬の時を写す作品。墨の濃淡、バランスと力強い作品。土で出来る色彩や形、森一蔵先生のピンク色も鮮やかな工芸作品。子年を表現された可愛い作品。渋紙の落ち着いた色で表現する作品。グラフィックデザインの故郷を感じる作品。本当に見ごたえのある展示ではないでしょうか。

六華苑祭の始まりの頃を思い出した、もう何年になるのでしょうか? 年度は忘れましたが、吉之丸コミュニティパークで文化協会会員が一堂に集まってイベントを行いました。黄色い野球帽子をスタップはかぶりながら...そして六華苑が一月中旬は入苑者が少ないとい



▲番蔵棟の美術展

う事で声がかかったと聞いております。「では」と文化協会が協力して行おうと役員の方々が話し合いました。

そして洋館では音楽部門が素敵な音色を聞かせて下さり、和館では能楽、琴、尺八、けんかカルタ、音に合わせて着物を着るパフォーマンス、離れ屋では各流派が交替にてお茶会、初春らしい着物を召した方々が来て下さいました。芝生広場ではキッズダンス、とても可愛い子ども達が舞っていました。番蔵棟では美術展、いろんな分野の作品が並びました。たくさんのお出がけ馬燈のように頭の中に浮かんでいきます。

これから何年参加できるかわからないけれど楽しく懐かしさを感じながらペンをおきます。

# 桑名市民芸術文化祭を終えて



## ダンス、DE、パフォー マンス、2019

芸術Ⅲ部門 岡本早苗

(ルナ フラメンカ)

令和元年十一月二十四日に、NTNシティホールの大ホールにおきまして、洋舞部門のステージが開催されました。

私もフラメンコダンスのグループの『ルナ フラメンカ』は、早いもので創立二十年を迎え、文化協会の会員になってからも十八年が経ちました。

今回は五年ぶりの文化祭参加となりましたが、同じく文化協会の会員の近藤ナオ氏率いる『パッションフラメンコ』のギタリストの方々にも参加・演奏をしていただくという嬉しい機会となりました。

大ホールでの開催ですので、たくさんのお客様に足を運んでいただきたいという思いで活動し、当日は、桑名市はもとより、関東・関西という遠方からも駆け付けてくださったお客様約八百名ほどの方々に披露することができました。

まだまだ未熟な私どもですが、フラメンコの情熱や、独特のリズ

ム、生伴奏との共演、をお客様に伝えたいという強い思いで事前練習を積み本番に臨みました。わが『ルナ フラメンカ』のメンバーも、舞台上に立つ回数を重ねるほどに成長させていただき、お客様からもたくさん温かい拍手と「良いものを見せてもらった、感動した」等の励ましのお言葉をいただきました。これを励みに今後もフラメンコを楽しんでいきたいと思っております。貴重な機会を与えていただきありがとうございます。ありがとうございました。



## くわコレ'19

趣味教養部門 後藤智子

(日進編物教室)

十月末のくわコレ当日のホール周辺は好天気で何やらにぎわいのある二日間でした。

今年は展示室でのショーと展示です。見に来て下さるお客様に、楽しんで頂ける様、自分達の手作りで、季節感のある会場作りに入れました。鉢花、果物、稲穂：ハロウィン、クリスマス、デイズニーキャラクターのリース：更に去年までの作品も会場内に飾りました。

ショーを当日のカメラから覗いてみると、かわいく楽しい会場に満席のお客様が見えます。うれしい事に、皆様ピンクのプログラムを片手に必死に作品をご覧になっています。中には身を乗り出している方もいらっしやいます。本当に開催者冥



利に尽きます。

翌日は、ショーの作品中心の展示と体験をやりました。昨年より来場者が減った様に思いましたが、作品の説明やら、来て下さった人への対応に、慌しい一日が過ぎていきました。

来年も十三年間続けてきて、飽きられない様、「見に来てよかったよ」と言われる様、教室の生徒さん達と作品作りに精進したいと思えます。



## お茶会



茶華香道部門 小川 章子

(表千家流)

令和になって初めての市民芸術文化祭茶会を、十一月三日に、六華苑和館の一の間と二の間で、遠州流茶道と表千家流で担当しました。

お天気もお茶日和で、お客様も朝からずっと二十数名ずつ茶席に入っていたいただき、水屋の方もフル回転で休む間もなく、少しお客様をお待たせした事は心苦しく思いましたが、なごやかに進行出来たと思っております。



御道具も桑名には一流の作家の方々が在住ですので、なるべくその作品で一服いただいてもらい、お菓子も抹茶も桑名の店舗で求めたもので、心掛けております。

ただ最近では茶華香道部門の方々の高齢化と若い方の参加が少なくなり将来が少し不安な事もあります。落ち着いて一服いただく事は、日常を離れて楽しい面もありますので、六華苑にて月釜も年九回(第三日曜日)五年毎に聞香、各流派の茶会も種々催される予定ですので、気軽に抹茶、煎茶、御香を体験しに来ていただく事を願っております。子ども茶道も年十回、市のパブリックセンターにて、第三土曜日の九時半から、表千家流の教授者が交替で指導しております。

先日、お姉ちゃんについて稽古場に来ていたヤンチャな男の子が中学になってひよっこり「ここに座ると落ち着く」と一服所望に来てくれました。とてもうれしい事でした。小さい頃の体験は気おくれせず参加出来るのだと思いました。

今年はおリンピックもあり、沢山の外国のお客様が日本を訪れます。日本の伝統文化は、外国の方々の交流にも役立ちますし子ども達に継承出来るよう頑張つて続けて行こうと思います。

## 新春懇親会

文学部門 竹村 一雄

(俳句を学ぶ会)

一月十八日、恒例の文化協会新春懇親会が桑名シティホテルで開催されました。

参加者は、会員、来賓総勢約八十名、和服姿の女性も多数いて正月気分を盛り上げていました。

今年度の桑名市文化功労者として三重県かるた協会桑名若菜会(趣味教養部門)が選ばれたことで、冒頭、その紹介があり、代表者から「映画『ちはやふる』の後押しもあり、幸運でした。これを機にかるたを多くの人に広く楽しんでもいただけるよう努めたい。」と喜びのあいさつがありました。

桑名市長からは、「来年は本多忠



▲桑名相撲甚句会によるアトラクション



勝が桑名に入つて四百二十年に当たり、この機会をとらえ全国に桑名を売り込むには、文化の発信力が重要であり、文化協会に期待したい。併せて、市民展での市長賞の内容も見直したい。」とのお言葉をいただきました。

アトラクションとして、大正琴、相撲甚句、日本舞踊と多彩な芸の披露があり、華々しい新春を迎えるにふさわしい雰囲気醸成していました。

年に一度のこの懇親会は、全部門の会員が一堂に会し、お酒も入って気楽に話し合える貴重な機会です。会場ではお互いに情報交換や今後の抱負等について話が盛り上がっていました。

今年も桑名市文化協会は、会員が力を合わせ、桑名の文化力の充実・拡大に貢献できることを期待します。

## 桑名市文化功労者 表彰を受けて

趣味教養部門 加藤 誠  
(三重県かるた協会 桑名若菜会)

私ども桑名若菜会は十一月に桑名市から今年度文化功労者として表彰を受けました。大変うれしく光栄に思っております。

表彰を受けられたのは、世の中でおきている競技かるたブームの流れにうまく乗らせていただいたのかなどうけとめています。

競技かるたブームは、漫画「ちはやふる」が二〇〇九年に「マンガ大賞」を受賞され有名になり、さらにこの漫画を原作として、朝ドラにも出演された広瀬すずさんが主演する「実写版ちはやふる」という映画が二〇一六年、一七年に連続三本上映され一気に火が付きました。

この結果、競技かるたの全国大会の参加者数はこの十年間で約三倍へと急増しました。

顕著なのは、毎年夏に滋賀県大津市で開催される「かるたの甲子園」といわれる高校選手権大会です。昨年は



▲全国大会の様子(ヤマモリ体育館)

全国から二四〇〇名もの参加があり、十年前は二会場で行っていた大会を十三か所にまで拡大して開催するという事態になりました。運営する私たち役員も嬉しい悲鳴をあげているところです。

さて、私は今回の受賞を契機としてあらためて競技かるたの更なる普及拡大をはかつていく気持ちで新たにしました。小倉百人一首という伝統文化をしつかりと次世代に伝承していきたい。その一つの試みとして、競技かるたを自ら楽しむだけでなく、他のスポーツと同じように、見て楽しめるような競技に育てあげていきたいと考えています。

全国組織の役員として、私は一月の日本一を決定する名人位・クイーン位決定戦、二月には全国トップレベル男女四名ずつが優勝賞金百万円をかけたタイトルマッチを解説を交えたネット中継と会場内で生で観戦いただけるような体制を敷き、多くの方に競技かるたの魅力・醍醐味を感じていただく取り組みを始めています。

その他、かるた教室の拡充を全国活動として取り組むなど種々トライしてまいりたいと考えています。

最後になりますが、私どもの活動にご理解、ご支援いただいています桑名市文化協会のみならず、桑名市産業振興部観光文化課のみならずにお礼申しあげます。どうもありがとうございました。

## 故 吉田敏男先生 を偲んで

美術部門 堤 三恵子  
(ぐるぷ雑創、アトリエ創)

吉田敏男先生が、昨年十一月十四日にご逝去されました事に心から哀悼の意を表し、誠に痛惜に堪えません。

幼少の頃から絵を描く事が好きで、小学校の学芸会では、背景をすでに描いてみえたとお聞きしております。

一九八二年に「三人の水彩画会」から美術団体「ぐるぷ雑創」を創立され、二〇一九年には、第三十八回の美術展開催となりました。この間、市民展、文化協会等にご尽力されて、二〇〇七年には桑名市文化功労者に表彰され、美術文化の発展に大いに貢献されたと思います。



▲情景(イースターの日に) 1999年

公募展の二元会では常任委員、日本美術家連盟会員となられ、多くの後進の指導をして来られました。私達も講座、サークル、水彩画教室等であらゆる絵画部門の技法を教えて頂く事が出来ました。

先生の活動指針は、生涯学習を基本として、地域の人達との繋がりを大切に、仲間同士の親睦を深め、絵画研鑽の為発表の場を沢山作るのお考えでした。その為に、各種講義の他に、スケッチ旅行、人物デッサン会等多くの勉強の場を設けて頂き、私達は絵を描く励みとなりました。又、どの様な質問にも即答され人生経験の豊かき、滲み出る技術の輝きを皆で何時も感心していました。

ご指導の中に、教えて頂いた事は必ず何時もメモを取る様に、又、一枚でも多く描く事が上達の基本と、教え続けられました。

これからは、教えを乞う事は出来ませんが先生から学んだ事を励みに、皆で描き続けたく思っています。

長い間、お疲れ様でした。どうぞ安らかに眠り下さい。本当に有難うございました。



# 令和2年度月釜・華道展目程表



**開催時間** 月釜 午前10時～午後3時30分  
 華道展 土曜日 午後1時～午後5時 日曜日 午前10時～午後4時

**開催場所** 六華苑 離れ屋月釜 番蔵棟(華道展)

**呈茶券** 前売券 900円(六華苑入苑料込・茶道各流派師範宅・六華苑で販売)  
 当日券 600円(六華苑入苑料460円別)

※4月18日(土)は、「県民の日」を記念して六華苑の入苑は無料です

呈茶券は、前売・当日共に600円

※お問合せ 桑名市文化協会事務局

(桑名市観光文化課内 TEL0594・24・1361)

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
令和2年 4月18日(土)	煎茶松風流	MOA山月光輪花
4月19日(日)		MOA山月光輪花
5月16日(土)		石田流
5月17日(日)	表千家流	石田流
6月20日(土)		華道家元池坊
6月21日(日)	茶道裏千家	華道家元池坊
9月19日(土)		竹真流
9月20日(日)	茶道裏千家	竹真流
10月18日(日)	遠州流茶道	休会
令和3年 1月17日(日)	表千家流	休会
2月20日(土)		小原流
2月21日(日)	茶道裏千家	小原流
3月20日(土)		草月流
3月21日(日)	遠州流茶道	草月流

## 令和2年度 桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。令和2年度の育成補助金を申請される方を募集いたします。

○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、令和2年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、平成30年度・令和元年度に補助を受けていない会員。

○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ提出申請する。書式は文化協会ホームページよりダウンロードすることできる。

○応募受付期間

令和2年3月2日(月)～

令和2年3月31日(火)

(令和2年4月1日～令和3年

3月31日までの実施事業に限る)

○申請の制限

平成30年度・令和元年度に補助金助成を受けた団体・個人会員は交付申請できない。

## 第28回 定期総会のご案内

〔日時〕 令和2年5月10日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

〔会場〕 桑名市パブリックセンター

大研修室

\*各部門から代表議員の選出をしていただきます。

## 令和元年度

### 新入会員の紹介

(3月1日現在までに入会の会員)

文学部門 俳句を学ぶ会

音楽部門 ソアレ混声合唱団

芸能I部門 きいろいろおうちの会

美術部門 個人会員 深貝武夫

美術部門 個人会員 田中 堯

(敬称略)

## 新入会員を随時募集しています!

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか?

## お問い合わせ

桑名市文化協会事務局

(桑名市観光文化課内)

TEL0594-24-1361

金雀枝短歌社

〈会員 近詠〉

小さき犬三匹連れて歩みくる夕日  
を背にせし少女がひとり

池田三津子

庭先の満天星つつじの色付くも夏  
日に近し霜月の暮れ

伊藤さくえ

台風の大きな被害を知りし朝突然  
に嗅ぐ木犀の香を

伊藤 紗代

曼珠沙華の白きを手折り持ちゆけ  
ば母は笑まえりその薄化粧

伊藤美咲子

言ひたきを言はずにひと日過ぎた  
ればすでに忘るる秋の夕ぐれ

岩花キミ代

よくぞまあ微分積分解きし日よ足  
し算引き算覚束ぬ今

上田 順子

幼き頃「たらい」に入り風呂となし  
母は背中をやさしく流す

海老原秀世

モバイル化ページをめくる音は無  
しあのやわらかな一瞬は何処

大平 千歳

浜名湖を渡るゴンドラ音もなく行  
つたり来たり窓ゆ眺むる

岡本 節子

やうやくに籠より外に飛び立つや  
雅子皇后と金糸雀重ぬ

加藤よしみ

時間かけ誤字は無きかと短歌一首  
詠めば誤作動消えてしまへり

川村久美子

駆け抜けし過去かと思ふ茹で栗を  
スプーンにほじる暇に飽かして

黒田美代子

三ツ指にいらつしやいませの声清か  
伊香保の宿のアジアの青年

後藤 明美

石畳をいちばん響かす靴をはき君  
とふたりで歩きたい街

斎田 眞希

覗きこむ女優鏡の輝きはナルキッ  
ソスの水辺にあらず

佐竹貴代子

看取りの間に帰り来し嫁の端切れ  
よき包丁の音厨にひびく

三田香代子

ヴァイオリンの音色は強弱高低を  
添えて語れり言葉あるがに

四方千枝子

ひたひたと忍び寄る水に靴・下駄  
のふかふか浮かびし伊勢湾台風

鈴木美恵子

秋の陽のおよばぬ庭隅ひとつもの  
万両の葉のみどり艶めく

高橋 典子

東北地方に「草木塔」のあると聞く  
草や木にある命へのまなざし

高橋フクミ

オレンジのペンキを歩道にぶちま  
けし如くに木犀一夜に散りぬ

多儀美佐子

干し物を畳みてをれば靴下に盗人  
萩の二つ三つ付く

田中 流石

近くの店に冬服を見る二人して老  
いても好きな服を選ばな

立松 鈴子

いろづきし紅葉の蔭に招かれてま  
まごと遊びの馳走を待てり

千種てい子

近頃の山くずれ多しいつの日か日  
本は平らな国になるかも

中村 里子

被災地のブルーシートは涙の色テ  
レビに写る一面の青

南部 信子

稲の束倒れているを夫言いて畑に  
鍬打つ背中丸き

西塚 郁代

幼き日喉の乾きに腹ばいて山清水  
飲みし青き空ごと

西野美津恵

手探りの栽培ながら植えし茗荷根  
元に今朝を白き花持つ

丹羽 孝之

傘立ての傘は我れのみ雨の日の林  
の中の小さき美術館

水谷 郁子

緋の色のシクラメン選る気まぐれ  
は独りの部屋に帰り着くため

水谷貴美子

SLは阿賀野川沿いに試運転石炭  
の臭い舟まで届く

三林 牧子

意のままにならぬ楕円のボール追  
いプライドをかけ見よ肉弾戦

宮原 恒子



# 一楓・山城顕彰短歌

## 〈小・中学生作品〉

ぼくの髪じいじがやるよバリカンで  
バリカンの音ドキドキするな  
小六 麻生 啓太

かいだんのドンドンドンはこうかあ  
るめざましよりも母のあし音  
小六 殿村 ふわ

夏本番涼しさもとめ多度峡へぼう  
しをたもに岩ハゼすくう  
小六 伊藤 暖真

本当のお友達なら言うべきだまぢ  
がつてるよやめときななつて  
小六 加藤 煌

まだ泣くな試合は今も続いている  
ゲームセットと言われるまでは  
小六 青沼 滉大

友達はかなしい気持ちをかえられ  
る私のひみつのまほうつかい  
小六 大橋 里紀

ごめんなさい声に出して言えるま  
でうつむいたまま心でさけぶ  
小六 柿本 愛

本を手にはページをめくるそのとた  
ん周りの声がかきえてなくなる  
小六 岩谷 美奈

たのしみはテニスの友との練習後  
言葉のラリーがとぎれない時  
小六 二村 知花

日本語がだんだん上手になってき  
ていっぱい話す楽しいももち  
小六 森 ルアン

カタツムリのつそのつそと梅雨の日  
に歩みは遅いが止まりはしない  
中二 澤村 光姫

かわいいな兄の昔の写真みてこのと  
きの子に会つてみたいな  
中二 黒田 知希

梅桜 紫陽花向日葵 彼岸花 黄  
金の稲穂 通学路の四季  
中二 岡田 彩生

夏の陽の光に当たつてゆらゆらと  
プールの青と照り返す白  
中二 辻 星奈

逃げまどう日に日に距離はちぢ  
まつてつかまえられる宿題という鬼  
中二 星野 梓月

2番目に大きいトロフィー見た瞬  
間の悔しい気持ち忘れられない  
中二 黒田 実子

「がんばれや」「もっとイケる」と言  
われるが私の中では「これが本気」  
中二 三木かなえ

農園で水やりしてて見つけたよ  
ホースの先に小さなじを  
中二 中野 愛土

自己ベストただそれだけを目標に  
必死に練習十三の夏  
中二 山下 愛心

位置につき熱い戦いはじまりだバ  
トンをつなぐ一本の道  
中二 鈴木 結ら

# 川柳 〈くわな川柳会〉

木原広志

## 川柳と画賛

俳句は目で味わい川柳は耳で味  
わうと言われるが、川柳は一読明  
快、平易な表現によつて訴え、耳か  
ら入った時に品の良い笑いをくれ  
る、これが川柳の極致と言われる。

私は四十代になり、将来毛筆を  
握れるために能筆の先輩に書を習  
うことを相談したが、「今からでは  
習つた字しか書けない、手おくれ  
だ。昔の人のように自分の字を作  
れ」とのアドバイス。

断念して日本画の門を叩く。  
以来私は我流で毛筆を握る。私  
の字を見た日展書家に、字ではな  
く絵だ、と言われ気が楽になった。  
書をあきらめてから、画賛に興  
味をもつ。

画賛はすでに絵の描いてある短  
冊や色紙へ句を添える。この場合俳  
句とことなり絵に対し、付かずはな  
れずと教えられた。

私の川柳教室では画賛を行うか  
ら全員が毛筆を握る。毛筆の文字  
は日本の文化であり、最近外国人  
も毛筆に興味をもつと聞いた。

日本が誇る、毛筆を大切にした  
い。

# 他人は言う

どん底を知らぬ学者の机上論

軍刀を吊つた日もある紙オムツ

貧しさに馴れる家計を叱りつけ

詫び一つ入れると眠り深くなり

小さな義理旅の土産で埋めておく

失言の修正液で追いつけず

姑の針穴嫁の目が助け

生真面目に生きた老舗が店を閉め

かんたんに別居をせよと言う他人

## 猫と相談

長生きがお金をかけて病んでいる

晩学を悔いて余生の墨をすり

茶柱に勇気をもらう万歩計

正直に生きると増えぬ預金高

ストーブを出す相談を猫とする

足の裏空の青さをまだ知らず

詩  
〈現代詩やまぶき〉

旅  
岡本妙子

もしやあなたは  
アサギマダラ様ではないですか  
今から二千キロの旅に出ようと  
うす紫色の藤袴の蜜をすう庭先で  
出逢った蝶に  
旅の途中のつれづれは  
美しい羽根を傷つけはしまいかと  
しゃがみこんで話しかけた

旅立つアサギマダラと  
そんなに遠くない日に  
旅を終えようとする者と  
無言の会話は  
まるで能楽のように  
袴の擦れ合う音までつれて

人を送りひとりで生きた者の  
心の景色をすっかり変えた  
ひよっとしたら  
まだ遠い道のりかも知れない  
めぐり逢えたよろこびを  
伝えたいから  
西の空で待っていてほしい



かがり火  
堀川孝子

鎮守の森は盛り上がった  
年末から年始  
一年間歩んできた道を振り返る  
手を握り合った男女  
石段を登りかねている夫婦  
病を抱えた人  
仕事の見つかった人  
感謝とお願いと誓いを込めて  
がらみどうの社殿の奥に届けと  
柏手を打つ

高々と組まれたかがり火が  
燃え盛る  
山積みされた間伐材  
火守りのハッピを着た人は  
——少々湿ついても生木でも  
燃えてしまいます  
顔をほてらせ

自分より太い丸太をかゝえた  
くすぶる木を立て直し  
パチパチとはぜる火の粉を浴び  
人々の冷えた吐息を混ぜ込むと  
ひとときわ激しく燃え上がる炎  
手のひらをあぶり  
背中をあたため  
あぶり出された荷を置き  
五十までは数えた  
年輪の息吹きに暖まっている

銀閣寺  
安田治三

足利義政の本意はそうではなかった  
眩い白砂の向月台を手前にして  
いつそう銀閣寺は義政の人となりの  
そのままに荘厳且つ質素である  
時を感じさせない静寂が  
世間の騒然とした中にこそ  
煌びやかさよりも  
心に沁みる穏やかさに  
和みを感じさせるのだ

不本意にも將軍になってしまった  
義政に何の準備や覚悟ができたか  
権力の争いから大乱となり  
都は炎と煙と悲鳴とともに  
荒れすさんでいった

義政はもとより統治能力を  
自覚していた訳でもなく自らが  
安寧の世を築こうとするよりも  
益々隠遁世界への憧憬を深めて  
四季の草花を愛で ながま  
花鳥風月の耽美な世界に沈潜し



質素な平穩を哀願する世界こそ  
至福の理想郷であったのだ  
そんな義政の東山風情は皮肉にも  
金閣寺の北山さえも吸収していった  
義政の身はたとえ露と消えても  
以来暦年の風雨に耐えて驕らず  
銀閣寺は日出ずる東山の地から  
静かに京の都を見守っている

## 俳句〈俳句を学ぶ会〉

竹村 一雄

長年勤めた会社を退職しはや十年、若いころからやってみたいことの一つに『俳句』というものがあつた。

昨年、ふとしたことでこの「俳句を学ぶ会」に入会した。

さて、なにかから始めるか？

学生の頃は、やはり芭蕉が偉い、と思つていたが、年を重ね俳句の鑑賞本をいくつか読んでみると、蕪村が自分の趣味に合っていると考えるようになってきた。

しかし、俳句を作るということになるのと、蕪村だ、芭蕉だなどといつているのは次元が異なることが判る。まず、本屋で俳句を作ることに関する本を何冊か買い、さらに図書館へ行き何冊か借り、とにかく読んでみた。

そして、とにかく作つてみた。

この正月に雪山を見に行き、

富士山を見おろす雪の八ヶ岳

そして、友人と二人でチェロとギターのアンサンブルの練習

翁ふたり赤い顔してお弾き初め

やはり、きちつとした指導者について、歳時記を買って正しく学ぶのが一番の近道なので、来年度はその方向で進みたいと考えている。そして、先にあげた句を見直してみても、昔はへたくそだったな、と思えるようになりたい。

そういえば、十年ほど前になるが、その頃、Eテレで「カシャッと一句」という番組があつた。タイトル通りに写真と俳句をセットで作り、評価、鑑賞する番組である。真似して作つてみた。

京都東寺にて

銘々に秋を盛りつけ道具市



安田 治三

初春の雑煮に踊る花かつを

初春や心あらたに華活けて

初春を嬉しきことと今は昔

冬空に鹿のなくこえ家あるか

大つらら凍れし朝に身は縮む

手も凍る冬大根を洗う母

宮前の庭先遊ぶ寒すずめ

初春や路傍の草も仲間たち

犬が鳴く誰か連れてよ冬の朝

まだ見えぬ敵こそ多し茨道

朝の茶沸くまで待とうやかんの湯

俳句生むその時こそは幸せの

先達の知恵に及ばぬ私の知恵

我も持て君も持てやと熊手かな

こぞり行くお礼と願ひ伊勢参り

宮前の店先並ぶ縁起物

流行り着に遅れてならぬ娘たち

## 文学へのいざない

文学部門広報委員

そのままにしておけば消えてしまう一日あなたの一日の中の一瞬を小さく切り取つて、あなたの言葉で文学にして残しませんか？

外の世界と自分を繋ぐ言葉を見つけてみませんか？

朝、目覚めたときに閃いたこと

ウォーキングの途中の光景

友との語りの中で思い出した昔

久しぶりに見た大きな虹、昼の月

寝入りばなに浮かんだ思い

その全てが文学を生み出す素材になるのです。

紙一枚と鉛筆一本、あるいはスマホ一つで天候にも体調にも左右されずに自由に、気ままに。

現在、文学部門には、現代詩、俳句、川柳、短歌の四つの会があります。

個人の方、団体の方々、年齢など気にせず大切な仲間として共に活動してみませんか？

そんな仲間が一人でも多く増えますことを願っています。



# 桑名地名あれこれ(22)

社会文化部門  
(個人会員)

大河内 浩



## 新矢田と新矢田二丁目

桑名市役所の所在地は中央町二丁目ですが、町内は新矢田から別れた新矢田北の町域です。さらにその南に新矢田一丁目という町内があります。これは序列としての一ではなく新矢田二丁目という町内はありません。新矢田に対し新・新矢田あるいは東矢田町・西矢田町・新矢田町に対して四番目の矢田町の意味あいです。

矢田は江戸時代以前からの村名で江場との村境が入り組み、本願寺の飛び地も点在して錯雑としていました。中枢集落は東端の南崩(現在の国道一号線の幅が変わるあたり)でしたが、桑名城下市街形成と東海道整備により、現在の新矢田一丁目あたりへ移りました。



元来の村界と両町町域

矢田村の本集落矢田に対して、桑名駅への道沿いにできた新集落が新矢田で、昭和初期にはそれぞれ矢田村の中の町会の一つでした。昭和23年の自治会発足で町会の矢田は新矢田一丁目と改名、その後区画整理では既に名前の定着した新矢田一丁目に対して、新矢田のあたりは新矢田二丁目の地名となりましたが、町名はそのままです。

戦後、新矢田一丁目目が石取祭を始めた当時は、先に新矢田が石取祭典市街へ参加して、町名と同じ新矢田の雅号でした。その後新矢田は脱退しましたが、新矢田一丁目は同号を避けて、三反長の雅号です。このあたり一帯の呼称三反縄が転訛した字地名です。



▶ 昨年五月奉祝祭での新矢田一丁目石取祭車  
矢田村字地名「三反長」の雅号を掲げます

「賛助いただいたいております  
特別会員の皆様 3月1日現在  
(五十音順)」

- 医療法人 桑名病院 様
- 医療法人尚徳会 ヨナハ総合病院 様
- 医療法人普照会 もりえい病院 様
- 医療法人誠会 山崎病院 様
- お菓子処 「和」 様
- カネソウ株式会社 様
- 株式会社 朝日精工 様
- 株式会社 歌行燈 様
- 株式会社 グランビル 様
- 株式会社 山水園 様
- 株式会社 水谷精機工作所 様
- 株式会社 レイ・ステージ桑名 様
- 木村洋子 様
- 桑名シテイホテル 様
- 桑名三重信用金庫 様
- 在日本大韓民国三三重県桑名支部 様
- 中央不動産株式会社 様
- 辻内鑄物鉄工株式会社 様
- 兎月堂 様
- 花江場中店 様
- 花乃江場中舎 様
- 光精工株式会社 様
- ヒルカワ金属株式会社 様
- 三重精機株式会社 様
- 森田フードシステム株式会社 様
- 有限会社 茶茂 様

日頃のご協力に對しまして、  
深くお礼申し上げます。

## 編集後記

異常気象に世界中が振り回された冬も、何とか過ぎて、春分の日も近く、桃が咲き、桜の苔みもふくらんで、まさに「花開萬國春」です。

平成五年六月二十七日、桑名市文化協会が設立され、八月一日には「桑名文協・第一号」が発行されました。平成・令和と時は流れて、今回で第四十七号。長い間白黒刷りのひきしまった紙面でしたが、今回よりカラー刷りとし、会員の皆様に、より親しみをもつて読んでいただければと思っております。

各部門よりの編集委員と、事務局の方々とで、三回の編集会議を開いて発行されます。編集会議は和やかな雰囲気の中で、きびしく意見を出し合っており、楽しく行われています。

「一度読んでも、また手に取って見ていただけるような、魅力ある紙面」を目指しています。

会員の皆様、記事の内容、読後のご感想等々を編集部にお寄せ下さい。これからの広報紙づくりに活かしていけたらと思います。

桜前線の北上は、どこまで？ 九華公園の花見、待っています。

(丹羽 宗俊)

- 広報担当副会長 丹羽 宗俊
- 広報担当副会長 安田 治三
- 委員 文学部門 佐竹貴代子
- 美術部門 伴 平蔵
- 音楽部門 藤井 弘
- 芸能I部門 村瀬 昌子
- 芸能II部門 森 誠
- 芸能III部門 伊藤 好子
- 演劇部門 相原 千景
- 茶華香道部門 小川 与松
- 社会文化部門 大河内 浩
- 趣味教養部門 加藤 誠